

平成27年度 道徳教育に関わる現状と課題

部長 伊藤 博

1 道徳教育の動向

道徳教育57年ぶりの大改革ともいわれる時期に直面している。いずれの地区においても、まず「特別の教科 道徳」への移行に向けて講演会を開催して研修を深めている。その後、授業研究を核に据えて学校間の情報交換を積極的に図り、道徳科に向けた授業改善を試行している。

◆上越地区

上越市では自校の実態を踏まえた移行措置の計画に備え、ワールドカフェ方式によるワークショップを開催し、研修内容や悩み等に関して活発な情報交換を図った。柏崎・刈羽では市教育センターと共催で研修会を開催し、特にモラルスキルトレーニングを取り入れた授業の有効性を学んだ。糸魚川市では、教科化に向けて豊かな体験活動を地域と共に実践し、道徳授業を要とした実践を積み重ねてきた研究校の成果に大いに学んだ。妙高市では講演を通して教科化の背景や制度について理解を深めるとともに、研究校から“考え・議論する道徳”に向けたジレンマ資料の活用、意見交流の場の設定について学んだ。

◆中越地区

長岡・三島では豊富な講師陣から教科化について学び、授業研究を通して“考える道徳”に焦点を絞った事例研修を行った。三条市では、市教育センター研修会への参加、教科化に向けた授業実践、悩みや不安についての意見交換を通して研修を深めた。十日町・中魚では教科化に向けた研修を通して、多様な言語活動に裏付けられた“考え・議論する道徳授業”への転換について意識を高めた。見附市では講演・模擬授業を通して、特に即興的に演じる役割演技の意味と効果について研修を深めた。燕・西蒲では、道徳性と道徳的実践力の意味と相互の関係について学び、授業研究では価値の葛藤を考えさせて実践につなぐ指導の重要性を学んだ。魚沼市では教科化に向けた準備を学ぶとともに、同一教材を用いて複数学年で授業を行い、教材の有効性について意見交換を行った。南魚沼郡市では「二つの意見」を用いた授業改善の方法が、道徳的価値に焦点付けた話し合いや道徳授業のユニバーサルデザイン化に有効であることが確認された。

◆下越地区

新発田・北蒲では講師の実践事例から資料の集め方、人とかかわる授業の進め方について学び、関連させた「人とかかわる道徳教育」の授業提案で研修を深めた。村上市では道徳スケールを用いて主人公の思いを考え、問いをもたせる授業提案がなされ、その方法と価値について学んだ。五泉市では道徳科に向けた授業づくりにおいて、“発問・子どもの立ち位置・資料の吟味・評価”から指導の在り方を吟味することを学んだ。阿賀野市では教科化の現状と今後について学んだ後、教科化を意識した授業提案をもとに研修を深めた。佐渡市では社会性と情動の学習（SEL）の資料を用い、役割演技を通して考えさせることで実践意欲を喚起する指導について学んだ。

◆新潟市

「①資料における人物や価値 ②友達の見方・考え方 ③新しく見えてきた自分の姿」の3つの出会いを視点にした指導法の工夫が、自己実現への思いや願いを培う授業づくりに有効な視点となることが確認できた。

2 道徳教育の課題

すでに移行措置期間は始まっている。文科省通知・留意事項では、移行期間の取組として指導方法の工夫を取り上げ、積極的な取組を望む旨の記述がある。「読み物道徳」から脱し、問題解決型・体験的な学習を通じて自分ならどのように行動するかを考えさせ、自分とは異なる意見と向き合い議論する中で、道徳的価値について多面的・多角的に学び実践へと結びつけていく指導。そうした指導への転換に向け、“確かな研修・計画・準備”が重みを増している。